

2023年度

日本健康医療専門学校

シラバス （講義概要）

鍼灸学科

3年生

専門基礎分野	疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進	臨床医学総論2	
町田 良太	鍼灸院の実務経験、開業鍼灸師 中学・高校の部活動のトレーナーも務める。		
必修	1単位（30時間）	講義	3年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 本講義では、医療従事者として必要な西洋医学的身体診察及び治療に関する医学的知識、技能に関して学習する。 この時間では身体診察の中でも、鍼灸臨床で関わりが多い運動麻痺や筋肉の異常、起立と歩行などの運動機能異常について深く学習する。 〈到達目標〉 関節可動域検査や徒手筋力検査などは実際に鍼灸臨床でも実施頻度が高い検査となるため、その知識と技術を身に付けることも本講義の重要な目的となる。			
2 授業内容			
1回	局所の診察		
2回	局所の診察		
3回	局所の診察		
4回	局所の診察		
5回	局所の診察		
6回	局所の診察		
7回	運動機能検査		
8回	運動機能検査		
9回	運動機能検査		
10回	運動機能検査		
11回	検査法		
12回	検査法		
13回	問題演習・復習		
14回	問題演習・復習		
15回	試験解説		
3 履修上の注意			
居眠り等せず、積極的に参加すること			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
授業内容をしっかり理解する目的で予習を行い、授業内容をしっかり定着させる目的で復習を行うこと			
5 教科書			
臨床医学総論 医歯薬出版			
東洋医学概論、東洋医学臨床論、経絡経穴概論、はりきゅう理論			
特になし			
7 成績評価の方法			
試験による			
8 その他			

専門基礎分野	疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進		臨床医学各論3	
鈴木 誠	鍼灸院の臨床経験有 現在は個人で訪問治療、スポーツトレーナーとして活動。			
必修	2単位（60時間）		講義	3年次
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉 超高齢社会の到来、生活習慣病の増加などを受けて疾病構造が複雑化かつ多様化している現代社会において、鍼灸医学に対する期待も大きくなって いる中で、はり師きゅう師が西洋医学的観点から臨床医学の知識を身に付けることは重大な意義を持つ。 〈到達目標〉 腎・尿器疾患、内分泌疾患、代謝栄養疾患、血液・造血器疾患、膠原病リウマチ性疾患などの疾病に関する医学的知識についてその概念を把握し、 その原因、症状、検査、治療およびその予後について医療従事者に必要な基礎知識を修得し、実際の臨床において適切な患者対応が出来る				
2 授業内容				
1回	ガイダンス	16回	代謝・栄養疾患（3）	
2回	感染症	17回	代謝・栄養疾患（4）	
3回	感染症	18回	代謝・栄養疾患（5）	
4回	感染症	19回	代謝・栄養疾患 総復習	
5回	感染症	20回	血液・造血器疾患（1）	
6回	感染症	21回	血液・造血器疾患（2）	
7回	感染症 総復習	22回	血液・造血器疾患（3）	
8回	内分泌疾患（1）下垂体疾患	23回	血液・造血器疾患（4）	
9回	内分泌疾患（2）甲状腺疾患	24回	血液・造血器疾患 総復習	
10回	内分泌疾患（3）副腎疾患	25回	膠原病（1）	
11回	内分泌疾患（4）副腎疾患	26回	膠原病（2）	
12回	内分泌疾患 総復習	27回	膠原病（3）	
13回	代謝・栄養疾患（1）	28回	膠原病（4）	
14回	定期試験1	29回	総復習	
15回	代謝・栄養疾患（2）	30回	定期試験2	
3 履修上の注意				
学則に従い受講すること。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
前回の授業内容の復習をすること。				
5 教科書				
「臨床医学各論 第2版」 東洋療法学校協会編 （医歯薬出版株式会社）				
東洋医学概論、東洋医学臨床論、経絡経穴概論、はりきゅう理論				
「臨床医学総論 第2版」 東洋療法学校協会編 （医歯薬出版株式会社）				
7 成績評価の方法				
①定期試験1と定期試験2それぞれで60％以上を合格とする。				
8 その他				

専門基礎分野	疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進	臨床医学各論4	
野口 智立	鍼灸治療院の実務経験、現在は訪問治療を個人で行う		
必修	2単位（60時間）	講義	3年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 超高齢社会の到来、生活習慣病の増加などを受けて疾病構造が複雑化かつ多様化している現代社会において、鍼灸医学に対する期待も大きくなっている中で、はり師きゅう師が西洋医学的観点から臨床医学の知識を身に付けることは重大な意義を持つ。この講義では、疾病に関する医学的知識についてその概念を把握し、その原因、症状、検査、治療およびその予後について医療従事者に必要な基礎知識を修得する。 特にこの時間では、鍼灸臨床でも治療に関わる機会が多い神経疾患を中心に、循環器疾患、血液造血器疾患について学習する。また、神経疾患に関しては鍼灸臨床上重要となる鍼灸治療適応の鑑別についても、その基礎知識を学習する。 〈到達目標〉 鍼灸臨床で遭遇しうる疾患の知識を持ち、症状、原因、予後等の説明ができるようにする。			
2 授業内容			
1回	循環器疾患①	16回	神経疾患⑤
2回	循環器疾患②	17回	神経疾患⑥
3回	循環器疾患③	18回	神経疾患⑦
4回	循環器疾患④	19回	神経疾患⑧
5回	循環器疾患⑤	20回	神経疾患⑨
6回	循環器疾患⑥	21回	神経疾患⑩
7回	循環器疾患⑦	22回	その他の領域①（麻酔科）
8回	循環器疾患⑧	23回	その他の領域②（麻酔科）
9回	循環器疾患⑨	24回	その他の領域③（婦人科疾患）
10回	循環器疾患⑩	25回	その他の領域④（皮膚科疾患）
11回	神経疾患①	26回	その他の領域⑤（眼科疾患）
12回	神経疾患②	27回	その他の領域⑥（耳鼻科疾患）
13回	神経疾患③	28回	その他の領域⑦（精神科疾患）
14回	定期試験1	29回	その他の領域⑧（心療内科）
15回	神経疾患④	30回	定期試験2
3 履修上の注意			
基礎科目の知識や臨床医学総論、その他の臨床医学各論と合わせて学習することで、総合的な問題に対応することができる。 そのため、他科目の復習も含めて真剣に取り組むこと。			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
該当する分野の解剖学、生理学は各自で復習をして授業に臨むこと。			
5 教科書			
臨床医学各論 第2版 医歯薬出版株式会社			
東洋医学概論、東洋医学臨床論、経絡経穴概論、はりきゅう理論			
7 成績評価の方法			
筆記試験（定期試験で60％以上の得点が単位認定の条件となる。）			
8 その他			

専門基礎分野	疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進	リハビリテーション医学	
金 世野	鍼灸整骨院の実務経験		
必修	2単位（60時間）	講義	3年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 リハビリテーションとは「人間らしく生きる権利の復活」という意味である。そのために運動機能や日常生活活動の障害を回復に導き、社会や環境への適応を促すための知識・技術がリハビリテーション医学である。 超高齢社会を迎えた日本社会において、今後ますます慢性疾患、特に運動器系の障害や機能低下を抱える患者が増えることが予想される中で、鍼灸師が今後の医療・介護の現場で活躍する人材となるために、リハビリテーション医学の知識・技術について学ぶ。 〈到達目標〉 この時間ではリハビリテーションの理念や障害の捉え方、脳血管障害や脊髄損傷など代表的な疾患のリハビリテーションについて学び、鍼灸臨床に活かせる知識・技術を習得する。			
2 授業内容			
1回	リハビリテーションと障害	16回	脊髄損傷のリハビリテーション
2回	リハビリテーション医学と医療	17回	脊髄損傷のリハビリテーション
3回	障害の評価	18回	脊髄損傷・切断のリハビリテーション
4回	活動の評価、合併症の評価、運動麻痺の評価	19回	小児のリハビリテーション
5回	運動年齢テスト、失行失認テスト、心理的評価	20回	骨関節疾患のリハビリテーション
6回	医学的リハビリテーション	21回	骨関節疾患のリハビリテーション
7回	理学療法（運動療法）	22回	関節リウマチのリハビリテーション
8回	理学療法（物理療法）、作業療法、言語聴覚療法	23回	関節リウマチのリハビリテーション
9回	補装具	24回	末梢神経障害のリハビリテーション
10回	補装具	25回	パーキンソン病のリハビリテーション
11回	脳卒中のリハビリテーション	26回	呼吸器疾患のリハビリテーション
12回	脳卒中のリハビリテーション	27回	心疾患のリハビリテーション
13回	脳卒中のリハビリテーション	28回	運動学
14回	復習	29回	運動学
15回	定期試験1	30回	定期試験2
3 履修上の注意			
国家試験対策も兼ねている為、居眠りなどせず積極的に参加すること			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
授業日程に沿って当該項目の内容を予習すること。授業中は配布したプリントの穴埋めに必要事項を記入し、要点を見直し出来るようにすること。			
5 教科書			
リハビリテーション医学（医歯薬出版株式会社）			
東洋医学概論、東洋医学臨床論、経絡経穴概論、はりきゅう理論			
7 成績評価の方法			
定期試験 1 および定期試験 2 それぞれ60％以上の成績と小テストの結果も考慮して単位を認める。			
8 その他			

専門基礎分野	保健医療福祉とはり及びきゅうの理念	医療概論	
山元大樹	鍼灸院の臨床経験有 鍼灸院院長		
必修	1単位（15時間）	講義	3年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 医療・医学を、歴史・論理・倫理の点から考えることにより、鍼灸師をめざすにあたって、「医療」というものを根本から考え、鍼灸行う目的や、患者に対する態度など自ら考えられるようになり、鍼灸師としてよりよい対応ができるようにすることを目的とする。 〈到達目標〉 この講義では、医療・医学の歴史の概要を理解し、現代社会において、西欧近代医学と東洋医学が提示する論理について、またその論理と現実との間で生じる問題を、相互に関連させながら考えることが出来るようにすることを目標とする。			
2 授業内容			
1回	1コマ：ガイダンス		
2回	2コマ：ガイダンス②		
3回	1コマ：医の倫理①		
4回	2コマ：医の倫理②		
5回	1コマ：医の倫理③		
6回	2コマ：医学史		
7回	2コマ：現代医療制度		
8回	2コマ：現代医療制度		
9回	2コマ：現代医療制度		
3 履修上の注意			
学則に従い受講すること			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
5 教科書			
医療概論 〈東洋療法学校協会編〉（医歯薬出版株式会社）			
東洋医学概論、東洋医学臨床論、経絡経穴概論、はりきゅう理論			
7 成績評価の方法			
筆記試験			
6割以上の得点が、単位認定の条件となる。			
8 その他			

専門基礎分野	保健医療福祉とはり及びきゅうの理念	関係法規	
高松 巧	鍼灸接骨院の実務経験		
必修	1単位（15時間）	講義	3年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律と、その他の医事福祉法規を理解することにより、はり師・きゅう師として適正に法律を遵守し、業務を遂行できるようにすることを目的とする。 〈到達目標〉 この講義では、①あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律②その他の関係法規を正しく理解することを目標に学習する。			
2 授業内容			
1回	オリエンテーション、法とは何か、成文法、不文法		
2回	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師に関する法律		
3回	業務 施術所などに関する規則・医療法		
4回	その他医療従事者に関する法律		
5回	社会福祉関係法規		
3 履修上の注意			
学則に従い受講すること			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
5 教科書			
関係法規 〈東洋療法学校協会編〉（医歯薬出版株式会社）			
東洋医学概論、東洋医学臨床論、経絡経穴概論、はりきゅう理論			
7 成績評価の方法			
定期試験①を行い60パーセント以上を合格とする。			
8 その他			

専門分野	基礎はり学、基礎きゅう学	はりきゅう理論2	
菅谷 匡美	大学病院付属鍼灸センターの実務経験、個人で訪問治療を行う。		
必修	2単位（40時間）	講義	3年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 鍼灸刺激が人体に与える影響について、生理学（感覚受容器・神経線維・脊髄内伝導路など）の側面から、様々な研究結果を通して学ぶ。 〈到達目標〉 鍼灸師として必要な、鍼灸治療の治効理論を身につけ、臨床において患者に説明できる事を目標とする。			
2 授業内容			
1回	第8章 生体の調節	運動系の調節	16回 第9章リラクセーションと鍼灸、生体防御系と鍼灸
2回	第8章 生体の調節	内臓系の調節	17回 第10章 刺激部位、刺激入力
3回	第8章 感覚	総論、感覚線維	18回 第10章 刺激入力、鍼灸刺激による治効機序
4回	第8章 感覚	脊髄伝導路、痛覚、侵害受容器	19回 第10章 鍼灸刺激による治効機序
5回	第8章 感覚	内因性発痛物質、伝導路、温度覚	20回 定期試験2
6回	第8章 感覚	触圧覚 、熱傷(炎症)	
7回	第8章 感覚	体表の反応	第9章 鍼鎮痛
8回	第9章 鍼鎮痛	下行性痛覚抑制系、DNIC	
9回	第9章 鍼鎮痛	脊髄分節性鎮痛、末梢性鎮痛	
10回	定期試験1		
11回	第9章 鍼灸治効機序	鍼鎮痛個人差、軸索反射	
12回	第9章 鍼灸治効機序	軸索反射、筋循環と鍼	
13回	第9章 循環系と鍼	筋循環と鍼、心拍数	
14回	第9章 運動系と鍼	消化器系と鍼	
15回	第9章 消化器系と鍼、泌尿器系と鍼		
3 履修上の注意			
私語は慎む。携帯電話や飲食物は机上に置かない。学則に則って受講をすること。			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
前回の講義の復習を行うこと。			
5 教科書			
はりきゅう理論 第3版 東洋療法学校協会編 医道の日本			
東洋医学概論、東洋医学臨床論、経絡経穴概論、はりきゅう理論			
生理学 第3版 東洋療法学校協会編 医歯薬出版株式会社			
7 成績評価の方法			
定期試験1 および定期試験2 それぞれ60%以上の成績を合格とする。			
8 その他			

専門分野	社会はり学、社会きゅう学	社会はりきゅう論 1	
高松 巧	鍼灸接骨院の実務経験		
必修	1単位（15時間）	講義	3年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 社会保障政策の改革や社会構造そのものが大きく変化する昨今、鍼灸師を取り巻く環境も大きく変化した。今後の鍼灸の発展、質の向上をはかるために、鍼灸師としてのニーズを把握するとともに、現代社会における鍼灸師の役割を考え、社会環境の変化に対応できるような鍼灸師を目指すことを目的とする。 〈到達目標〉 この講義では、現代社会における医療制度の現状を理解すること、また、地域医療について理解し、鍼灸師として地域で期待される業務を理解することを目標とする。			
2 授業内容			
1回	総論、現代社会における医療制度の現状		
2回	我が国の医療制度、医療制度及び介護保険制度の概要		
3回	医療機関におけるあはき師の役割		
4回	施術所におけるあはき治療		
5回	高齢化社会におけるあはき師の役割、最終評価		
3 履修上の注意			
学則に従い受講すること			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
5 教科書			
社会あはき学　〈東洋療法学校協会編〉（医歯薬出版株式会社）			
東洋医学概論、東洋医学臨床論、経絡経穴概論、はりきゅう理論			
7 成績評価の方法			
レポート提出			
8 その他			

専門分野	社会はり学、社会きゅう学	社会はりきゅう論 2	
山元大樹	鍼灸院の臨床経験有、 鍼灸院院長		
必修	1単位（15時間）	講義	3年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 社会保障政策の改革や社会構造そのものが大きく変化する昨今、鍼灸師を取り巻く環境も大きく変化した。今後の鍼灸の発展、質の向上をはかるために、鍼灸師としてのニーズを把握するとともに、現代社会における鍼灸師の役割を考え、社会環境の変化に対応できるような鍼灸師を目指すことを目的とする。 〈到達目標〉 この講義では、自らのキャリアビジョンを明確にすることで興味関心のある鍼灸分野を明確にする。			
2 授業内容			
1回	倫理①		
2回	倫理②		
3回	倫理③		
4回	現代医療①		
5回	現代医療②		
6回	現代医療③		
7回	現代医療④		
8回	現代医療⑤		
9回	現代医療⑥		
10回	現代医療⑦		
11回	現代医療⑧		
12回	キャリアを描く①		
13回	キャリアを描く②		
14回	キャリアを描く③		
15回	キャリアを描く④		
3 履修上の注意			
学則に従い受講すること			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
5 教科書			
社会あはき学 〈東洋療法学校協会編〉（医歯薬出版株式会社）			
東洋医学概論、東洋医学臨床論、経絡経穴概論、はりきゅう理論			
7 成績評価の方法			
レポート提出			
8 その他			

専門分野	実習		はりきゅう実技3A（臨床実技Ⅰ）	
阿部好史	鍼灸院の実務経験、臨床経験有 開業鍼灸師			
必修	2単位（60時間）		実技	3年次
1. 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉 基礎実技および応用実技で培った技術をもとに、鍼灸臨床で遭遇しやすい頸腕痛、肩関節痛、腰下肢痛、膝関節痛、スポーツ障害などの整形外科疾患や頭痛、腹痛、眩暈、疲労倦怠といった主要症候の治療方法について、その治療穴や鍼法・灸法を疾患別に学習する。 〈到達目標〉 筋膜の繋がり、経筋の繋がり、神経的なアプローチ、皮膚へのアプローチや筋トリガーポイント療法など様々な繋がりを学び東西医学のジャンルを越え鍼灸医術を体得し、卒業後の鍼灸臨床で実践できる治療技術を身に付けることを目標とする。				
2. 授業内容				
第1回	ガイダンス	体の繋がりを知る/肩こり説明	第16回	頸回旋痛
第2回	肩こり		第17回	頸回旋痛
第3回	肩こり		第18回	手腱鞘炎
第4回	腰痛①（椎間関節性腰痛）		第19回	変形性膝関節症
第5回	腰痛②（胸腰筋膜性）		第20回	変形性膝関節症
第6回	腰痛③（筋筋膜性）		第21回	三叉神経痛
第7回	腰痛④（筋筋膜性②）		第22回	大後頭神経痛／GOTS
第8回	腰痛⑤（筋筋膜性）		第23回	耳鳴り難聴
第9回	腰下肢痛		第24回	耳鳴り難聴
第10回	腰下肢痛		第25回	肋間神経痛
第11回	肩関節周囲炎		第26回	肋間神経痛
第12回	肩関節周囲炎		第27回	橈骨神経麻痺
第13回	実技試験		第28回	実技試験
第14回	実技試験		第29回	実技試験
第15回	足根洞症候群		第30回	総復習
3. 履修上の注意				
・目で学ばず指の感覚で学ぶ ・指示されたこと以外の施術は禁止 ・患者役は患者ではなく練習相手であることを忘れずに！ ・互いの良かった部分を伸ばしあうこと				
4. 準備学習（予習・復習等）の内容				
5. 教科書				
配布資料/東洋医学臨床論				
東洋医学概論、東洋医学臨床論、経絡経穴概論、はりきゅう理論				
7. 成績評価の方法				
実技試験の点数（口頭試問込み）に出席点を加味				
8. その他				
鍼は美容鍼・寸3・寸6・2寸を用意。点灸もぐさやせんねん灸や長生灸などの温灸も若干必要				

専門分野	実習	はりきゅう実技3B（臨床実技Ⅱ）	
鈴木 誠	鍼灸院の臨床経験有 現在は個人で訪問治療、スポーツトレーナーとして活動。		
必修	2単位（60時間）	実技	3年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 日本の鍼灸医学界には様々な流派・治療法が存在している。この時間では日本で行われている鍼灸治療や各流派の治療法について、その独自の考え方や特徴、取穴法や鍼法・灸法といった実技について学んでいく。 〈到達目標〉 美容鍼灸や婦人科疾患などにも対応できるよう、幅広い治療法を学んでいく。 学生中に多くの治療法に触れることで将来の自分の臨床スタイルを方向付ける手がかりとすることを目標とする。			
2 授業内容			
1回	ガイダンス	16回	鍼通電療法⑥
2回	トリガーポイント①	17回	鍼通電療法⑦
3回	トリガーポイント②	18回	鍼通電療法⑧
4回	トリガーポイント③	19回	鍼通電療法⑨
5回	トリガーポイント④	20回	定期試験
6回	トリガーポイント⑤		
7回	トリガーポイント⑥		
8回	トリガーポイント⑦		
9回	トリガーポイント⑧		
10回	トリガーポイント⑨		
11回	鍼通電療法①		
12回	鍼通電療法②		
13回	鍼通電療法③		
14回	鍼通電療法④		
15回	鍼通電療法⑤		
3 履修上の注意			
実技細則を厳守すること。			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
筋肉の起始・停止・支配神経・作用を復習し、授業に臨むこと。			
5 教科書			
はりきゅう実技(基礎編)(株医道の日本社) ・東洋医学臨床論(はりきゅう編)(株医道の日本社)			
東洋医学概論、東洋医学臨床論、経絡経穴概論、はりきゅう理論			
鍼通電療法テクニック 改定第3版(株医道の日本社)			
7 成績評価の方法			
①実技試験(100点満点)において60％以上を取得すること。②卒業見込実技試験を合格をしていること。③実技授業で課されるすべての課題を提出していること。①～③の全ての要件を満たすことで単位習得を認め、これらを総合して成績評価を行う。			
8 その他			

専門分野	臨床実習	臨床実習B（臨床実習Ⅱ）	
遠藤 好美	鍼灸マッサージ治療院の実務経験		
必修	2単位（90時間）	実技	3年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 臨床実習は指導教員のもとで実際の治療現場を治療者として経験することにより、今までの講義及び実習を通じて習得した知識・技術を広く応用させ、自分自身で面接から治療後までのアドバイスを行う中で、患者さんのもつ諸問題を解決しながら適切な患者－治療者関係の構築をはかることを目的としている。はり師きゅう師の資格取得を目指す学生が到達すべき行動目標として、具体的に以下の内容を定め実習を実施する。また、一連の鍼灸臨床のプロセスを通して学生自身が「自分の問題点はどこにあるのか」「その問題点を解決するためには何を学習すればよいのか」「自己学習した結果、まだ何が足りないか」を考えながら学習をすすめ、それを解決する姿勢を身につけることが大切となる。 〈到達目標〉 臨床実習を経験することにより、今までの講義及び実習を通じて習得した知識・技術を広く応用させ、自分自身で面接から治療後までのアドバイスを行う中で、自身の問題点を発見し、それを解決する姿勢を身につけることを目標とする。また実際の臨床に際して安全な施術を行うための知識と技術を身につけることも目標となる。			
2 授業内容			
1回	臨床実習	16回	臨床実習
2回	臨床実習	17回	臨床実習
3回	臨床実習	18回	臨床実習
4回	臨床実習	19回	臨床実習
5回	臨床実習	20回	臨床実習
6回	臨床実習	21回	臨床実習
7回	臨床実習	22回	臨床実習
8回	臨床実習	23回	臨床実習
9回	臨床実習	24回	臨床実習
10回	臨床実習	25回	臨床実習
11回	臨床実習	26回	臨床実習
12回	臨床実習	27回	臨床実習
13回	臨床実習	28回	臨床実習
14回	臨床実習	29回	臨床実習
15回	臨床実習	30回	臨床実習
3 履修上の注意			
OSCEのすべての項目に合格していなければ参加を認めない。			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
臨床実習においてはこれまで1-2年次に学習した内容がすべて必要となる。しっかり知識を身に付けて臨むこと。			
5 教科書			
東洋医学概論、東洋医学臨床論、経絡経穴概論、はりきゅう理論			
7 成績評価の方法			
出席状況および授業への取り組み、診療録の内容、授業を通しての成長度、課題の提出状況などを元に総合的に評価する。			
8 その他			

専門分野	臨床実習	臨床実習C（臨床実習Ⅲ）	
野口 智立	鍼灸治療院の実務経験、現在は訪問治療を個人で行う。		
必修	2単位（90時間）	実技	3年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 臨床実習は指導教員のもとで実際の治療現場を治療者として経験することにより、今までの講義及び実習を通じて習得した知識・技術を広く応用させ、自分自身で面接から治療後までのアドバイスを行う中で、患者の持つ諸問題を解決しながら適切な患者－施術者関係の構築をはかることを目的としている。はり師きゅう師の資格取得を目指す学生が到達すべき行動目標として、具体的に以下の内容を定め実習を実施する。また、一連の鍼灸臨床のプロセスを通して学生自身が「自分の問題点はどこにあるのか」「その問題点を解決するためには何を学習すればよいのか」「自己学習した結果、まだ何が足りないか」を考えながら学習をすすめ、それを解決する姿勢を身につけることが大切となる。 〈到達目標〉 臨床実習を経験することにより、今までの講義及び実習を通じて習得した知識・技術を広く応用させ、自分自身で面接から治療後までのアドバイスを行う中で、自身の問題点を発見し、それを解決する姿勢を身につけることを目標とする。また、臨床実技として美容鍼灸を学ぶとともに、実際の臨床に際して安全な施術を行うための知識と技術を身に付けることも目標となる。			
2 授業内容			
1回	臨床実習	16回	臨床実習
2回	臨床実習	17回	臨床実習
3回	臨床実習	18回	臨床実習
4回	臨床実習	19回	臨床実習
5回	臨床実習	20回	臨床実習
6回	臨床実習	21回	臨床実習
7回	臨床実習	22回	臨床実習
8回	臨床実習	23回	臨床実習
9回	臨床実習	24回	臨床実習
10回	臨床実習	25回	臨床実習
11回	臨床実習	26回	臨床実習
12回	臨床実習	27回	臨床実習
13回	臨床実習	28回	臨床実習
14回	臨床実習	29回	臨床実習
15回	臨床実習	30回	臨床実習
3 履修上の注意			
実際の臨床を想定した実習になるため事前の準備を十分に行うこと。見学実習では必ずメモをとり、実際の臨床現場と同様に真剣に取り組むこと。患者対応に不備がないように心掛けること。			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
臨床実習においては、これまで1-2年次に学習した内容がすべて必要となる。しっかり知識見直しして臨むこと。			
5 教科書			
東洋医学概論、東洋医学臨床論、経絡経穴概論、はりきゅう理論			
7 成績評価の方法			
出席状況および授業への取り組み、診療録の内容、授業を通しての成長度、課題の提出状況、身だしなみなどを元に総合的に評価する。			
8 その他			
実技細則違反や忘れ物等は実習への参加を認めないものとする。			

専門分野	臨床実習		臨床実習D（臨床実習Ⅳ）	
木下 立彦	開業鍼灸師			
必修	2単位（90時間）		実技	3年次
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉 臨床実習は指導教員のもとで実際の治療現場を治療者として経験することにより、今までの講義及び実習を通じて習得した知識・技術を広く応用させ、自分自身で面接から治療後までのアドバイスを行う中で、患者の持つ諸問題を解決しながら適切な患者－施術者関係の構築をはかることを目的としている。はり師きゅう師の資格取得を目指す学生が到達すべき行動目標として、具体的に以下の内容を定め実習を実施する。また、一連の鍼灸臨床のプロセスを通して学生自身が「自分の問題点はどこにあるのか」「その問題点を解決するためには何を学習すればよいのか」「自己学習した結果、まだ何が足りないか」を考えながら学習をすすめ、それを解決する姿勢を身につけることが大切となる。 〈到達目標〉 臨床実習を経験することにより、今までの講義及び実習を通じて習得した知識・技術を広く応用させ、自分自身で面接から治療後までのアドバイスを行う中で、自身の問題点を発見し、それを解決する姿勢を身につけることを目標とする。また、臨床実技として美容鍼灸を学ぶとともに、実際の臨床に際して安全な施術を行うための知識と技術を身に付けることも目標となる。				
2 授業内容				
1回	臨床実習	16回	臨床実習	
2回	臨床実習	17回	臨床実習	
3回	臨床実習	18回	臨床実習	
4回	臨床実習	19回	臨床実習	
5回	臨床実習	20回	臨床実習	
6回	臨床実習	21回	臨床実習	
7回	臨床実習	22回	臨床実習	
8回	臨床実習	23回	臨床実習	
9回	臨床実習	24回	臨床実習	
10回	臨床実習	25回	臨床実習	
11回	臨床実習	26回	臨床実習	
12回	臨床実習	27回	臨床実習	
13回	臨床実習	28回	臨床実習	
14回	臨床実習	29回	臨床実習	
15回	臨床実習	30回	臨床実習	
3 履修上の注意				
実際の臨床を想定した実習になるため事前の準備を十分に行うこと。見学実習では必ずメモをとり、実際の臨床現場と同様に真剣に取り組むこと。患者対応に不備がないように心掛けること。				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
臨床実習においては、これまで1-2年次に学習した内容がすべて必要となる。しっかり知識見直しして臨むこと。				
5 教科書				
東洋医学概論、東洋医学臨床論、経絡経穴概論、はりきゅう理論				
7 成績評価の方法				
出席状況および授業への取り組み、診療録の内容、授業を通しての成長度、課題の提出状況、身だしなみなどを元に総合的に評価する。				
8 その他				
実技細則違反や忘れ物等は実習への参加を認めないものとする。				

専門分野	総合領域	専門科目B（スポーツ鍼灸学）		
町田 良太	鍼灸院の実務経験、開業鍼灸師 中学・高校の部活動のトレーナーも務める。			
必修	2単位（40時間）	実技	3年次	
1 授業科目の概要・到達目標				
〈概要〉 近年の競技スポーツの世界では年々高度な技術が要求されるようになり、中高生のうちから早期の技術習得を求められているため、競技者は肉体的・精神的ストレスにさらされることが多くなった。また、高齢社会にあって多くの人が健康維持のためにスポーツに参加している状況もある。このようなスポーツの質的向上と量的拡大の結果として、スポーツ外傷や障害に悩む患者が増えているのが現状である。 この講義では「東洋医学臨床論」の教科書に記載されているスポーツ外傷・障害を中心に、臨床で遭遇しやすいスポーツ外傷・障害の概要とその処置法について学習する。 〈到達目標〉 鍼灸治療による処置法だけではなく、テーピングやストレッチといったスポーツ現場で実践できる技術を身に付け、スポーツ現場で活躍することが出来る鍼灸師の育成、また患者・選手の状態が十分に評価でき、最適な医療を提供できるようになることを目標とする。				
2 授業内容				
1回	アスレティックトレーナーについて	16回	各論	下肢帯・下肢
2回	スポーツと鍼灸師との関わりについて	17回	各論	上肢帯・上肢
3回	応急処置	18回	各論	上肢帯・上肢
4回	テーピング概論・実技	19回	各論	上肢帯・上肢
5回	テーピング実技	20回	定期試験	
6回	テーピング実技			
7回	ストレッチ			
8回	ストレッチ			
9回	アスレティックリハビリテーション			
10回	アスレティックリハビリテーション			
11回	各論 体幹・腰痛			
12回	各論 体幹・腰痛			
13回	各論 体幹・腰痛			
14回	各論 下肢帯・下肢			
15回	各論 下肢帯・下肢			
3 履修上の注意				
実際の現場で活動しているつもりで、緊張感をもって積極的に臨むこと				
4 準備学習（予習・復習等）の内容				
授業内容をしっかり理解する目的で予習を行い、授業内容をしっかり定着させる目的で復習を行うこと				
5 教科書				
特になし 参考資料を配布します				
東洋医学概論、東洋医学臨床論、経絡経穴概論、はりきゅう理論				
鍼灸マッサージ師のためのスポーツ東洋療法				
7 成績評価の方法				
出席 試験 授業への取り組み				
8 その他				

専門分野	総合領域	専門科目C（老年鍼灸学）	
木下 立彦	開業鍼灸師		
必修	1単位（20時間）	実技	3年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 超高齢社会の到来に伴い鍼灸師が高齢者の施術にあたる期会は増加しており、今後さらに増えていくものと思われる。 この講義では高齢者の身体的特徴・心理的背景・社会的背景を理解するとともに高齢者特有の疾患の特徴とその治療法について学び、高齢者に対する鍼灸臨床の特性を理解することを目標とする。また、鍼灸臨床に必要なトランスファー技術など、実際に高齢者の施術を行う際に必要な技能を身に付けることも目標である。 〈到達目標〉 この講義では高齢者の身体的特徴・心理的背景・社会的背景を理解するとともに高齢者特有の疾患の特徴とその治療法について学び、高齢者に対する鍼灸臨床の特性を理解することを目標とする。また、鍼灸臨床に必要なトランスファー技術など、実際に高齢者の施術を行う際に必要な技能を身に付けることも目標である。			
2 授業内容			
1回	高齢者の特徴①		
2回	高齢者の特徴②		
3回	高齢者の特徴③		
4回	高齢者の特徴④		
5回	高齢者の特徴⑤		
6回	介護保険①		
7回	介護保険②		
8回	介護保険③		
9回	介護保険④		
10回	介護保険⑤		
11回	トランスファー①		
12回	トランスファー②		
13回	トランスファー③		
14回	まとめ①		
15回	課題試験		
3 履修上の注意			
私語は慎む。携帯電話・スマートフォン・飲食物は机上に置かない。学則に則って受講をすること。			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
授業内で確認テストを適宜行う予定。			
5 教科書			
無し			
東洋医学概論、東洋医学臨床論、経絡経穴概論、はりきゅう理論			
東洋医学臨床論（東洋療法学校協会編） 衛生学・公衆衛生学（東洋療法学校協会編）			
7 成績評価の方法			
1、定期試験が60％以上で単位認知とする 2、出席状況・授業態度を「1」の点数に加味することがある			
8 その他			
シラバスは状況により変更することがあります その時は適宜お伝えします。 日によって授業時間数が1コマ又は2コマの場合がある為、授業内容（回数）を15回で表記しています。			

専門分野	総合領域	専門科目D（鍼灸解剖学）	
山元大樹	鍼灸院の臨床経験有、鍼灸院院長		
必修	2単位（40時間）	講義	3年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 解剖学を鍼灸施術と関連させることで、鍼灸施術においてより重要となる部分、危険部位等を再確認し、鍼灸施術をより正確で安全な臨床を行えるようにすることを目的とする。 〈到達目標〉 鍼灸臨床で直接的に関わる①筋骨格系②神経系③脈管系を取り上げ、経穴の部位の再確認や危険部位を関連させながら学び、高度な鍼灸施術が行えるようにすることを目標とする。			
2 授業内容			
1回	ガイダンス鍼灸臨床におけるリスクマネジメントの意義と鑑別の重要性	16回	しびれ「神経解剖学」①
2回	腰痛「解剖学」①	17回	しびれの鑑別と臨床②
3回	腰痛の鑑別	18回	定期試験2
4回	腰痛の臨床		
5回	リスクマネジメント概論「鍼灸医療事故と有害事象の対策」		
6回	危険経穴①		
7回	危険経穴②		
8回	危険経穴③		
9回	気胸と心タンポナーデ		
10回	定期試験1		
11回	肩こり「解剖学」①		
12回	肩こり「解剖学」②		
13回	肩こり「解剖学」③		
14回	肩こりの鑑別		
15回	肩こりの臨床		
3 履修上の注意			
学則に従い受講すること			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
前回の授業内容を復習すること			
5 教科書			
解剖学〈東洋療法学校協会編〉（医歯薬出版株式会社）			
東洋医学概論、東洋医学臨床論、経絡経穴概論、はりきゅう理論			
鍼灸医療安全ガイドライン			
7 成績評価の方法			
定期試験 1 および定期試験 2 それぞれ60％以上の成績を合格とする。			
8 その他			

専門分野	総合領域	専門科目E（西洋医学総合演習）	
野口 智立	鍼灸治療院の実務経験、現在は訪問治療を個人で行う。		
鈴木 誠	鍼灸院の臨床経験有 現在は個人で訪問治療、スポーツトレーナーとして活動。		
必修	2単位（60時間）	講義	3年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 鍼灸臨床で遭遇する患者に対し適切な施術ができるように西洋医学の内容を全般的に学習する。本講義では、人体の正常な構造と機能を理解するために解剖学、生理学、病的な状態や具体的な疾患や検査を理解するために病理学、臨床医学総論、臨床医学各論、リハビリテーション医学、その他として医療概論、関係法規、公衆衛生学も含めて、鍼灸臨床に必要なとなる総合的な知識の確認を行う。			
〈到達目標〉 基礎科目から応用科目に総合的に理解をし、鍼灸臨床において必要な知識を身に着ける。			
2 授業内容			
1回	病理学①腫瘍	16回	関係法規：免許
2回	病理学②炎症	17回	リハビリ：脳卒中のリハビリテーション
3回	病理学③循環障害	18回	解剖：循環器系・呼吸器系
4回	生理学①内分泌1	19回	リハビリ：呼吸器のリハビリテーション
5回	医療概論	20回	関係法規：業務
6回	総論：全身の診察	21回	解剖：循環器系・呼吸器系
7回	生理学②内分泌2	22回	リハビリ：脊髄損傷のリハビリテーション
8回	医療概論	23回	公衆衛生：ライフスタイルと健康
9回	各論：感染症・消化器疾患	24回	公衆衛生：環境と健康、産業保健
10回	リハビリ：各疾患のリハビリテーション	25回	リハビリ：脳性麻痺のリハビリテーション
11回	各論：肝・胆・膵疾患・呼吸器疾患	26回	公衆衛生：母子保健、成人高齢者保健
12回	医療概論	27回	公衆衛生：感染症、消毒法
13回	各論：内分泌・整形・代謝疾患	28回	リハビリ：切断のリハビリテーション
14回	リハビリ：各疾患のリハビリテーション	29回	解剖：神経・内分泌系
15回	各論：膠原病・その他の疾患	30回	公衆衛生：疫学、保健統計
3 履修上の注意			
私語は慎む。携帯電話や飲食物は机上に置かない。学則に則って受講をすること。			
4 準備学習予習・復習等の内容			
授業の予習・復習を必ず行い受講すること。			
5 教科書			
東洋医学概論、東洋医学臨床論、経絡経穴概論、はりきゅう理論			
6 参考書			
7 成績評価の方法			
成績は卒業見込試験の成績に代える。			
8 その他			

専門分野	総合領域	専門科目F（東洋医学総合演習）	
菅谷 匡美	大学病院付属鍼灸センターの実務経験、個人で訪問治療を行う。		
谷 佳奈	美容系のサロン、リハビリ施設の実務経験		
必修	2単位（60時間）	講義	3年次
1 授業科目の概要・到達目標			
〈概要〉 東洋医学概論、経絡経穴概論、東洋医学臨床論、鍼灸診察学、はりきゅう理論で学んだ東洋医学に関する知識を統合し、実際の患者を想定した演習を繰り返し行う。 〈到達目標〉 鍼灸臨床で実践できる東洋医学の知識として理解を深めることを目標とする。			
2 授業内容			
1回	はき理Ⅱ：鍼灸の治療的作用、生体防御機構	16回	東概(東医臨)：六淫・内生五邪・内傷病因
2回	はき理Ⅱ：鍼の血流に及ぼす影響、関連学説	17回	経穴：問題演習
3回	はき理Ⅰ：鍼の基礎知識	18回	東概(東医臨)：陰陽学説・五行学説
4回	はき理Ⅱ：関連学説	19回	東医臨：痺証・頸肩腕痛
5回	はき理Ⅰ：灸の基礎知識 鍼灸の臨床応用	20回	東医臨：肩こり・腰痛
6回	はき理Ⅱ：問題演習	21回	経穴：上下肢、胸腹部、腰部横並び
7回	はき理Ⅰ：リスク管理	22回	東医臨：上肢痛・肩関節痛
8回	東概(東医臨)：八綱弁証・臓腑弁証	23回	東医臨：下肢痛・膝痛
9回	東概(東医臨)：肝の病証	24回	経穴：足部・手部、頭顔面部
10回	東概(東医臨)：脾の弁証	25回	東医臨(東概)：古代刺法と東洋医学用語
11回	東概(東医臨)：腎の病証	26回	東概(東医臨)：東洋総まとめ
12回	経穴：流注、要穴	27回	東医臨：小児疾患・老年医学
13回	東概(東医臨)：気血弁証	28回	東医臨：顔面神経麻痺・顔面痛
14回	経穴：奇経八脈、同じ高さの経穴	29回	経穴：問題演習
15回	東概(東医臨)：経絡弁証・六経弁証	30回	東医臨：総復習
3 履修上の注意			
私語は慎む。携帯電話や飲食物は机上に置かない。学則に則って受講をすること。			
4 準備学習（予習・復習等）の内容			
授業の予習・復習を必ず行い受講すること。			
5 教科書			
東洋医学概論、東洋医学臨床論、経絡経穴概論、はりきゅう理論			
6 参考書			
7 成績評価の方法			
経穴番付の得点率が60％以上の者に、卒業見込試験の受験資格を与える。 成績は卒業見込試験の成績に代える。			
8 その他			